

# 吉野川水系河川整備計画の点検等について 令和4年度 第1回 吉野川学識者会議を開催 しました

## 【整備計画の点検】

吉野川の河川整備計画には、流域の社会情勢の変化や地域の意向、河川整備の進捗状況や進捗の見通し等を適切に反映できるように、適宜その内容について点検することとしています。今回の総合点検は、整備計画変更から一定期間（5年間）が経過したことから実施することとしました。

その結果、河川整備計画に位置づけられた事業が着実に進捗していることや、今後の進め方として、更なる事業の推進、気候変動を踏まえた治水計画の検討、流域治水への転換の必要性を確認して頂きました。

## 【事業の再評価】

吉野川直轄河川改修事業及び早明浦ダム再生事業の再評価にあたり、事業の必要性、事業進捗の見込みなどについて事務局から説明し、学識者の方々に審議をしていただきました。

審議の結果、吉野川直轄河川改修事業及び早明浦ダム再生事業は、「事業継続とする判断は妥当である」との意見をいただきました。

□開催日時：令和4年7月22日（金）

13:30～16:30

□開催方法：WEB（ウェブ）会議

現地会場：徳島河川国道事務所

（2階 会議室）

□出席委員：12名（WEB参加）

□一般傍聴：インターネットによる配信



### 吉野川学識者会議 委員名簿

氏名	専門分野	所属
岡村 未対	地盤工学	愛媛大学大学院 教授
角道 弘文	農業水利	香川大学創造工学部 教授
鎌田 磨人	生態系管理（生態学）	徳島大学大学院 教授
河口 洋一	魚類学	徳島大学大学院 准教授
木下 覚	植物分類学	徳島県植物研究会 会長
金原 祐樹	文化史・文化財	徳島県立文書館 課長
上月 康則	水環境 （環境工学・生態系工学）	徳島大学環境防災研究センター 教授
柴折 史昭	鳥類	徳島希少鳥類研究会 事務局長
田中 俊夫	地域福祉	徳島大学人と地域共創センター 教授

氏名	専門分野	所属
田村 隆雄	治水計画（森林水文学）	徳島大学大学院 准教授
田村 典子	児童教育	四国大学生生活科学部 教授
中野 晋	沿岸域工学・地盤工学 地震工学・防災対策（地震）	徳島大学環境防災研究センター 教授
平井 松午	歴史地理学・歴史GIS	徳島大学 名誉教授
松村 豊大	地域経済	徳島文理大学総合政策学部 教授
武藤 裕則	洪水防御（河川工学・水理学）	徳島大学 理工学部長
山中 英生	地域づくり	徳島大学大学院 教授
山中 亮一	水質（水環境）	徳島大学環境防災研究センター 准教授

※木下覚委員、柴折史昭委員、田中俊夫委員、平井松午委員、山中英生委員は、所用により欠席となりました。欠席された委員には事務局より事前に説明を行い意見を伺いました。



議長 中野 晋



岡村 未対



角道 弘文



鎌田 磨人



河口 洋一



金原 祐樹

## ●「整備計画の点検」に関するご意見

### 1. 吉野川整備計画点検結果について

- 事業が着実に進捗していることが確認できた。
- 間伐が進むことで河川への流出量が増える可能性があるため、森林整備のあり方なども関係機関と協議して頂きたい。
- 外来種は繁茂スピードが速いため、侵入初期段階で早期に駆除することが必要であり、現在も行ってる取組を今後もしっかりと行って頂きたい。
- 工事の実施前に、新たな地区においてもしっかりと埋蔵文化財調査を進めて頂きたい。
- 国交省で作成を推進している水害リスクマップは、様々な降雨確率毎の浸水範囲を示すことになっているが、リスクが分かりやすくなる反面、情報量が多く煩雑となるため、防災教育を高度化する取組みも必要。
- 災害リスクや、まちづくりの観点の意識向上を踏まえたまちづくりと一体となった整備の推進をお願いしたい。
- 吉野川は山地・森林が水源地として非常に重要な役割を担っている。流域治水に関して関係機関と協議していくためにも、山地・森林の水文データの調査や蓄積をする取り組みが必要。
- 流域治水プロジェクトのグリーンインフラ版の記載について、これまでの自然再生事業等の取組以外に、流域の中にあるグリーンインフラについて、治水に活用していくための保全等についても記載して頂きたい。

河川整備計画に位置づけられた事業が着実に進捗していることや、今後のすすめ方として流域治水の推進・気候変動を踏まえた治水計画の検討の必要性を確認して頂きました。



上月 康則



田村 隆雄



田村 典子



武藤 裕則



山中 亮一

## ●「事業の再評価」に関するご意見

### 2. 吉野川直轄河川改修事業の再評価について

- B/Cも十分な効果を発揮するという数値が出ているため、今後も吉野川直轄河川改修事業を継続して頂きたい。

### 3. 早明浦ダム再生事業の再評価について

- 物価上昇がかなり厳しくなっているため、その+10%で収まらない可能性もあるかとは思いますが、費用便益比がかなり高いため、B/Cが1を下回るといったことはないと感じた。
- 再評価等では臨機応変に評価し、事業が早く終わるようにしていただければ、大変ありがたい。

吉野川直轄河川改修事業及び早明浦ダム再生事業は、今後「事業継続とする判断は妥当である」との意見をいただきました。

●【令和4年度 第1回 吉野川学識者会議】の会議資料は、徳島河川国道事務所のウェブサイトからダウンロードすることができます。